

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる		
数値目標	数値目標	基準値	目標値
	二宮町の社会移動数（人）	+57	+80

施策評価（施策主管部長）

施策 2 - 2

施策	特色ある教育活動の推進
施策内容	特色ある教育活動として、小中学校と地域が一体となって、義務教育 9 年間を見通した教育を進めるとともに、誰もが互いに認め合う、「共に学び共に育つ教育」を推進します。 また、多様な子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、学びや育ちの環境を整えるとともに、コミュニティ・スクールの枠組みを活用し、地域学校協働活動の推進による家庭や地域社会の教育力向上に努めます。 町の特色ある教育活動の一つである英語教育においては、引き続きALT（外国語指導助手）の活用や海外の生徒とのオンライン交流を促進し、自然と話したくなる生きた英語指導を行うとともに、英語検定料の助成を行うなど、魅力ある学校教育を推進していきます。

No.	関連する主な事業	トータルコスト（千円）				庁内評価（２次評価）			
		R5	R6	R7	R8	R5	R6	R7	R8
1	小中一貫教育推進事業	4,118				良好・拡大			
2	英語教育推進事業	9,801				適当・維持			
3	ICT教育推進事業	63,792				良好・維持			
4	コミュニティ・スクール運営促進事業	3,387				適当・維持			
5	地域学校協働活動推進事業	4,713				適当・維持			
合計		85,811	0	0	0				

※達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

関係する主な重要業績評価指標（KPI）									
指標名			基準値	R5	R6	R7	R8	R9	達成状況
①	中学3年生の英検3級取得率（％）	計画	42.6	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	D
		実績		17.7					
②	コミュニティ・スクールの認知度（％）	計画	21.4	23.0	25.0	27.0	29.0	30.0	B
		実績		22.9					
③	小中一貫教育の認知度（％）	計画	37.6	40.0	42.5	45.0	47.5	50.0	A
		実績		42.0					
④	放課後子ども教室の登録率（％）	計画	26.9	27.0	27.5	28.0	28.5	29.0	A
		実績		41.9					
前年度	成果	－							
	課題等	－							
今年度	成果	・小中一貫教育は、カリキュラム研究、小・中交流事業、小学校同士の連携事業など着実に事業推進を行った。 ・放課後子ども教室は、周知が進むとともに参加しやすいように保護者負担を軽減するなどの工夫によって、参加者が増加傾向にある。							
	課題等	・アンケート調査の結果から中学生は、将来、英語を学ぶことは役に立つという認識を持ち合わせているので、生徒の意識の醸成を図り、目標として英検３級取得を目指すような取り組みを継続して進める必要がある。							

※評価 「地方創生に非常に効果的であった」「地方創生に相当程度効果があった」「地方創生に効果があった」「地方創生に対して効果がなかった」

内部評価（評価・理由等）	
地方創生に相当程度効果があった	小中一貫教育の推進など、特色ある教育活動について、概ね目標を達成しているか超えている状況となっている。しかし、英語教育の推進については、計画との乖離が大きいため、改善を図る必要がある。

※評価 「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」「施策実現に向け順調であるため継続実施」「施策実現に向け課題があるため見直しが必要」

外部評価（評価・主な意見等）	
施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	・教育における町の特色として、自然教育を通じて自分たちが暮らす町を知ってもらうことを位置付けるよう、KPIも含めて見直しを検討すること。 ・学習環境の向上のため、子どもたちに何を学ぶかの選択肢を示し、学習内容を自分の意志で決定できる仕組みを検討すること。 ・放課後こども教室の実績として、登録率が高い数値となっているので、開催数を目標として設定するなど、さらに発展したKPIを追加してもよいのではないか。 ・小中一貫教育校としてにのみや学園が始まったものの、従来と何が変わったのか実感が無い。 ・中学校の部活動は、通学先と別学区の町内中学校に所属しても良いことになったが、学校によって試験期間が違っていたり、通学で自転車が禁止されていたりと、授業後に部活動のため通うことは現実的ではないため、取り組みの推進にあたっては子どもたちの声を聞いていくこと。

※ 町の最終方針 「継続推進」「見直し」「拡大・拡充」

町の最終方針（今後の方向性）	
継続推進	〈特色ある教育活動の推進〉 施設分離型小中一貫教育校「にのみや学園」の運営 すべての学校が「認め合い、高め合う、二宮の子」という統一した教育目標の実現に向けて、「にのみや学園プロジェクト」として、引き続き、行事や部活動見学など、小学校と中学校のつながりを大切にした9年間の学びや育ちを支える。（詳細は行政評価における最終方針のとおり） ・学校における自然教育については、生活科、理科、社会等の教科を扱う際に身の回りにどのようなものがあるか学ぶ中で二宮の自然についても触れており、今後も継続して実施する。 ・総合的な学習の時間については、生徒たちが自らテーマを決めて探究的な学習を行っており、また、校内教育支援センター「ほっとルーム」の全校配置や、通級指導教室の拡充、教育支援室の柔軟な運営など、多様な学び方が選択できる取り組みを引き続き推進する。